

ノーモア・ヒバクシャ通信 第55号

2021年7月9日

ホームページ <http://www.nomore-hibakusha.org>
継承ブログ <http://keishoblog.com/>
フェイスブック <https://www.facebook.com/kiokuisan>
ツイッター <https://twitter.com/nomorehibakusha>

発行者
NPO 法人 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会
〒102-0085
東京都千代田区六番町 15 プラザエフ 6F
Tel/Fax 03-5216-7757 (直通)
Email info-kiokuisan@nomore-hibakusha.org
郵便振替口座 00110-5-292881
口座名義 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

(目次)

I. 第9回通常総会の報告	1
II. ホームページのリニューアルについて	2
III. 未来につなぐ被爆者の記憶プロジェクトの報告	3
IV. 日本被団協『被爆者からあなたに いま伝えたいこと』(ブックレット)を発行	3
V. 【お知らせ】昭和女子大戦後史PJ 光葉博物館の特別展について	4
VI. 【寄贈書籍の紹介】	4

新型コロナウイルスの感染拡大は収束の見通しどころか、東京オリンピック・パラリンピックの強行によって日本発のパンデミックが懸念されます。深く憂慮せざるを得ません。

昨年度はコロナ禍のもと、オンライン上の会議やイベントに積極的に取り組みました。今年度はさらに、「ノーモア・ヒバクシャ継承センター」の設立向けこの会の所蔵する資料・文献を紹介・広報する機会をできるだけ多くし、そのための創意工夫を重ねたいと望んでいます。会員の皆様からも、ご意見やお知恵を寄せていただきますようお願いいたします。

本号は、第9回通常総会開催とホームページの改定にかかわる報告を中心にお知らせします。

I. 第9回通常総会の報告

去る5月22日(土)午後1～3時、東京四谷主婦会館プラザエフ会議室、出席会員83名(実出席8名、Zoom出席8名、書面出席59名、委任出席8名)で開催し、2020年度事業報告承認の件、2020年度決算報告承認の件、監査報告を賛成多数で採択・承認し、滞りなく終了しました。主な内容は、次の通りです。

前代表理事の岩佐幹三さん、会員の関千枝子さんをはじめ原爆犠牲者のご冥福を祈り黙祷をささげて、開会しました。2021年度事業計画をめぐる意見交換が行われ、その主な発言を以下に紹介します。

〈主な発言・報告〉

○ コロナ禍、ウェビナーやZoomで定期的に情報発信するのは有効だ。海外向けにも寄付の呼びかけ・募金システムを検討するといひ。

- 会としてHP改定のもとに、オンライン上でもっと取り組みを知らせたり、海外への募金の呼びかけもすでに取り組んでいる関係者と相談したい。賛助会員は、賛助団体傘下の組織やその会員に呼びかけられるように取り組みたい。
- 中央と同時に地方での取り組み拠点を広げたい。未来につなぐ被爆の記憶プロジェクトのシステムの活用、ヒバクシャ国際署名連絡会のネットワークとの連携、被団協発行の岩波ブックレットの活用等で、被爆者と若者との交流を図りたい。
- 高校の教員をしていたが、(この会の活動について) 知りたいけど、どうやって知れるのか分からない。どうしたらここにつながるか、考えている人たちはたくさんいると思う。オンラインだからこそ、気軽に参加できるスタイルというのはいいと思う。
- SDGsについて、ある金融機関の人たちと話したとき、(その意味が) 末端にまで達していない。平和がその一つの取り組みにしかになっていない(核廃絶は人類生存の問題)。
- 「69行動」を駅頭ですっと続けている。「今日はヒバクシャの日」、HPやフェイスブックで機動的にできる。6と9の日に、「被爆者の話を聞く」カフェもある。
- 核兵器禁止条約が発効したが、その前文の位置づけ、「原爆被害者の苦しみ」「被爆者たちの条約への貢献」をHPやフェイスブック、SNSでもっと拡散することが大事だ。
- オンラインの活用、若い人たちの参画、核禁条約前文の意義の普及、HPは気軽にアクセスしてもらえるよう運用し、(ヒバクシャ国際署名連絡会) 林田さんと懇談するなど、若い人たちとの連携を深めていきたい。

中澤正夫代表理事より閉会のあいさつを行い、できるだけ早くワクチンを打ってください、人間は無駄なおしゃべりをしないと自分の心が弾まない、いろいろな出会いから心情的な団結が生まれる旨、述べられました。

以上、報告とします。

II. ホームページのリニューアルについて

かねてより取り組んでおりましたホームページの改訂が完成しました。ホームページにおけるお知らせや活動紹介掲載の機動性を高めるため、継承ブログ等を廃止しホームページと一体化。より動きのある魅力的なページとして広報効果を高めます。

つきましては、URLアドレスも <http://www.nomore-hibakusha.org/> へ変更しましたので、「ブックマーク」「お気に入り」等の登録をご変更願います。これに伴い、本会のメールアドレスも info-kiokuisan@nomore-hibakusha.org に変更しました。被爆者運動の記録や継承、本会の活動等に関係する情報やイベント等に関する連絡がございましたら、いつでもお寄せください。

具体的にどのように変わったのかは、是非ホームページにアクセスして体感し、ご確認ください。

今後は新しいホームページに掲載する情報を頻繁に更新し、それをFacebookやTwitterで発信し、積極的な広報活動を行ってまいります。

Ⅲ. 未来につなぐ被爆の記憶プロジェクトの報告

継承する会では「未来につなぐ被爆の記憶プロジェクト」のボランティア企画として、学生さんやお母さんが中心になって「継承」のためのイベントを開催してきました。

2/27(土)「これからの継承活動」をテーマにオンライン・イベントを開催



高校生～70代の方まで、幅広い世代で今思っていること・疑問など…ほぼフリートーク。企画した私自身、気づきや発見の多い時間となりました。数年前、私が継承活動に関心を持ち始めた頃、そういったテーマを話す相手も場所も見つけられずにいたからです。“カフェで友達と話す”ように継承について話せる、そんな場を、今後も定期的につくっていかれたらと思います。(中尾)

3/27 春休み親子企画『オンラインで学ぶ「ヒロシマ」～紙芝居とお話～』

町友会（東京の町田市の被爆者団体）、町友会とともに生きる会、継承する会の共催。小学生のお子さんでも理解できるように、最初に紙芝居「美和子ちゃんのおにぎり」を上演後、紙芝居のモデルになった神戸美和子さん（7歳 広島被爆）と交流しました。8～11歳の小学生をはじめ14名が参加しました。神戸さんの体験、参加者の感想は写真のQRコードからお読みいただけます。(しま)



【夏休み オンライン・イベント】

7/31に『親子で学ぶ「ヒロシマ」～紙芝居とお話～』を、8/28に『クレイアニメとお話で知るヒロシマ』（仮題）の開催が決まりました。交流会「オンラインで伝える被爆体験～活動紹介と交流」（仮題）も準備中。詳しくはHPをご覧ください。

Ⅳ. 日本被団協がブックレットを発行

『被爆者からあなたに いま伝えたいこと』（岩波ブックレット、682円）

核兵器禁止条約が発効した今年、8月に結成65周年を迎える日本被団協が、長年にわたり“ふたたび被爆者をつくるな”と核兵器廃絶と原爆被害にたいする国家補償を求めつづけてきた運動のあゆみをブックレットにまとめ発行しました。

「被爆者たちによる原爆とのたたかい（運動）を人類のあゆみ・歴史に刻むアーカイブス」（継承センター基本構想）をめざす継承する会にとって、被爆者自らが創り出してき

た被団協運動の経験から学び、世界にまたとないこの運動の意義を深く知ることは、いわば活動の土台というべきもの。ブックレットを活かすとりくみを具体化していきたいと考えています。みなさまがこのブックレットをご覧になって感じたこと、気づいたこと、もっと深く知りたいことなど、感想やご意見をぜひお寄せください。また、お知り合いに広く普及し、様々な場で活用して下さるようお願いいたします。(チラシを同封します)

V. 【お知らせ】昭和女子大学「戦後史PJ」の光葉博物館特別展

「被爆者運動の足跡—被団協関連文書の歴史的分析から」をテーマに

継承する会の被爆者運動史料の整理に協力しながら、2018年に立ち上げた昭和女子大学の「戦後史史料を後世に伝えるプロジェクト—被団協関連文書—」は、学園祭での企画展示(2018「被爆者に『なる』」/2019「被爆者の『発見』」/2020「被爆者の『生きてきた歴史』展」)を重ね、今年最終年を迎えています。

PJへの4年間の参加者は、他大学生も含む述べ55人。コロナ禍の下でも、毎週のようにオンラインのミーティングを重ねてきました。その研究成果が、今秋、学内の光葉博物館で特別展として開催されます。

テーマは「被爆者運動の足跡—被団協関連文書の歴史的分析から」。目下、日本被団協や継承する会から資料や写真を借り出して、会場配布のパンフレットを制作中。被爆者運動は戦後社会に何を提起してきたのかを考え、被爆者の生き方や「思考のプロセス」に着目しつつ学んできた学生たちの研究成果に、大いに期待がもたれます。

特別展の期間は、10月23日(土)～11月27日(土)。詳細は追ってまた。

VI. 【寄贈書籍の紹介】ご寄贈ありがとうございました

● 一般社団法人 北海道被爆者協会より

酒城繁雄『被爆30年に憶う—被爆者と安保』(復刻版)

1975年に北海道平和委員会が発行したパンフレットの復刻版。復刻にあたってA5判に拡大されました。

酒城さんは広島の暁部隊で被爆、北海道被団協の創設時から長く事務局長を務めました(2005年死去)。1983年1月、中曽根康弘首相による就任後初訪米時の「不沈空母」発言(「日本列島を不沈空母のように強力に防衛する」、ワシントン・ポスト紙)に憤り、名前を「無核」と改め生涯これで通した硬骨漢。その語り口を生かした編集は、ふだんはとても優しい酒城さんの人柄を偲ばせます。

● 中国新聞社より『ヒロシマの空白 被爆75年』

2019年から昨年被爆75年にかけて、記録にない死者、身元不明の遺骨、消えた街並みなど、未解明の原爆被害を追った連載企画「ヒロシマの空白」を基に再構成された書籍。第3部「さまよう資料」編の⑦解散団体の記録には、「ならコープ平和ライブラリー」のとりくみや継承する会も紹介されています。

中国新聞紙上のこの連載は今もつづいています。